



参加者は打ち合わせの後、知井方面に向かい、江和地内から「川班」と「陸班」に分かれて作業に取り掛かりました。

川班・ボート隊

「川班」はボートで川を下りながらゴミを回収します。一見ごみも無くきれいな水が流れる美山川も、川岸に下りてみると空き缶や木に引っかかったビニールなどがあちこちに。ごみの回収と同時に、河川の整備も行われ、水面に垂れ下がった竹や柳を上流で伐採し、下流の浅瀬で回収するという連携のとれた作業が展開されました。上流の山から流出した土砂の堆積によりできた中州を眺めながら参加者の一人は「昔はもっと深い川だったのに水の流れがすっかり変わってしまった。なんとかこの土砂を除去して水の流れを戻さない」と話されていました。

陸班・軽トラック隊

「陸班」は道路沿いの投棄ごみの回収を実施。南丹市不法投棄パトロール作業員（次ページに記載）が「南丹市内で一番不法投棄が少ない」という美山の道ですが、参加者の持つ回収用の袋はすぐにごみで一杯に。がけの下からはタイヤやワイヤーなど大型のごみも回収され、その量は軽トラッ



▲柳の木を伐採し漁場を整備

美山産官学公連携協議会 景観環境保全プロジェクト 代表

松田 茅里さん

全国的にはラフティング団体と漁業関係者は協力することが少ないのですが、私たちはラフティングと釣り、お互いの川の恵みの中で生きている者同士、協力して美山川をきれいにする活動をしようとして、昨年からはクリーンリバー作戦を始めました。

われわれ地元住民は、どうして



もこういった作業を義務的にとらえてしまいます。しかし、芦生自然学校や田歌舎で働く若者は作業を楽しんでやっています。彼らの姿を見ていると、本当に川が好き、山が好きという気持ちが伝わってきて、たくましさや清々しさを感じます。彼らの川を大切にすることを、そのためには労力を惜しまないという気構えには感服するばかりです。

雪害により川面に垂れ下がった竹や柳の伐採もでき、鮎をはじめ魚のすみやすい、また、良好な漁場として回復させることができました。せっかく昨年清掃作業を行い、予想を超えるごみを回収した美山川上流部には悲しいことに今年もまた不法投棄が多数見られます。私たちの活動が広く認められ、少しずつでも不法投棄の減少につながればと願っています。